

## 会 議 録

|                            |       |  |            |
|----------------------------|-------|--|------------|
| 会 議 名<br>(審議会等名)           |       | 平成27年度 川西市社会教育委員の会 第2回全体会  |            |
| 事 務 局<br>(担 当 課)           |       | 教育推進部 社会教育・文化財課 (内線 3421)  |            |
| 開 催 日 時                    |       | 平成27年11月25日(水)<br>10時00分～12時00分  |            |
| 開 催 場 所                    |       | 市庁舎 202会議室   |            |
| 出<br>席<br>者                | 委 員   | 生田議長、安藤副議長、末澤委員、岡田委員、田中委員、廣末委員、<br>米田委員<br><br>計7名   |            |
|                            | そ の 他 |  |            |
|                            | 事 務 局 | 中塚こども未来部長、石田教育推進部長、<br>中西総務調整室長、若生学校教育室長、柘川まなび支援室長、田淵中<br>央図書館長、沼人権推進室長、瀧花中央公民館長、井上社会教育・文<br>化財課長<br><br>計9名   |            |
| 傍聴の可否                      |       | <input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可  | 傍聴者数<br>0名 |
| 傍聴不可・一部<br>不可の場合は、<br>その理由 |       |  |            |
| 会 議 次 第                    |       | 1. 開会<br>2. 教育長あいさつ、前回会議録の承認<br>3. 報告事項<br>(1)全国社会教育研究大会の報告<br>(2)兵庫県社会教育研究大会の報告について<br>(3)阪神北地区社会教育委員協議会第3回理事会について<br>(4)各協議会の会議報告について<br>4. 議題<br>(1)平成27年度年間研究テーマ「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」について<br>・社会教育施設の今後について<br>・地域・学校・家庭の連携について<br>5. その他 |            |
| 会議結果                       |       | 別紙のとおり   |            |

# 審 議 経 過

NO. 1

|     |  |
|-----|--|
| 議長  | <p>平成 27 年度川西市教育委員会の会第 2 回全体会を開会いたします。本日の出欠について、田中委員、真鍋委員、岸本委員、西谷委員が欠席で、他の委員は全員出席です。開会にあたりこども未来部並びに教育推進部からそれぞれ挨拶をお願いします。</p> <p>こども未来部長<br/>(挨拶)</p> <p>教育推進部長<br/>(挨拶)</p>  |
| 議長  | <p>それでは、前回の議事録の承認についてですが、今年度から全体会として3回と検討会形式の分科会3回で実施していることから、前回全体会の会議録となります。</p> <p>(承認)</p>  |
| 議長  | <p>次に報告事項に入ります。(1)(2)について事務局より報告をお願いします。</p>   |
| 事務局 | <p>(1)「第 57 回全国社会教育研究大会(大分大会)」について<br/>         日時：平成 27 年 10 月 8 日～ 9 日<br/>         会場：大分市ホルトホール<br/>         ・平成 27 年度研究主題<br/>         「互いに助け合い支え合う「地域力」を高める社会教育の再生」<br/>         当日、生田議長が全国社会教育委員連合会長表彰を受けられる<br/>         来年度は、千葉市で開催</p> <p>(2)「平成 27 年度兵庫県社会教育研究大会」について<br/>         日時：平成 27 年 11 月 18 日<br/>         会場：兵庫県民会館<br/>         (午前)パネルディスカッション<br/>         テーマ「次代を担う世代による社会教育」<br/>         コーディネーター：兵庫県立大学防災教育研究センター 森永教授<br/>         パネリスト：NPO法人ワカモノチカラプロジェクトの大学生メンバーと事務局長</p> <p>(午後)分科会<br/>         阪神北地区が今年度は第 1 分科会を担当する<br/>         テーマ「文化が人をつくり・地域をつくる～公民館講座の出会いからの発展～」<br/>         B 委員による川西市民創作ミュージカル「川西の金太郎」メイキングを元にした発表。</p> |
| 議長  | <p>皆様のご推薦で全国社会教育委員連合会長表彰を頂きました。ありがとうございました。全国大会では全国の情報を色々と頂きましたが、社会教育をまちづくりや地域づくりという観点として見ていく流れが強くと感じました。分科会では、地域の子供たちが自分のまちや村の伝統文化を披露する中で、子どもを育て、まちづくりを活性化させると</p>  |

# 審 議 経 過

NO. 2

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>いう実践報告で、郷土愛を育みながら子どもや地域全体を盛り上げていくという地道な活動が印象に残りました。B委員には、県の研究大会で川西市での活動を「ミュージカル川西の金太郎」で報告いただきました。出席された委員の方には報告をお願いします。</p>  |
| B委員 | <p>皆様のご協力のおかげをもちまして無事に終了する事ができました。ありがとうございました。</p>   |
| C委員 | <p>大変好評で川西の良い宣伝にもなった。ただし、川西市でうまくいったからと言ってミュージカルをやればどこでもうまくいくというわけではないということはおっしゃっていた。</p>   |
| E委員 | <p>川西でここまで発展したミュージカルができたというのは、奇跡的な繋がりができたからだろうということです。なぜこんなに人が集まったのかという質問があったのですが、募集したら集まりましたというB委員の答えでしたが、募集して来てくれるのだったら、皆、苦労をしないのですが、それを考えると、核になる方々が人の輪を紡いでいかれた結果かなと思う。テーマが「文化が人をつくる・地域をつくる」になっていますけれど、人が文化、地域をつくると感じました。この実践報告は他の地域の方も参考になったのではないかと思います。繋がりは人間を育て、これが子ども達に受け継がれたら、また何か違った形で繋がりを考えてくれるのではないかと思います。</p> |
| 議長  | <p>生涯学習というのは人づくりや心、生き方の分野で物として残りません。まちづくりといえば言葉としてはきれいなのですが、結局は人や心の繋がりを如何に大事にするのかということです。これは教育の分野でも全く同じ事だと思いました。次に、(3)の報告を事務局よりお願いします。</p>   |
| 事務局 | <p>(3)「阪神北地区社会教育委員協議会第3回理事会」について<br/>         日時：平成27年10月13日<br/>         場所：猪名川町役場<br/>         ・第2回研修会について<br/>         平成28年2月19日(金)午後1時30分から日生公民館にて<br/>         講師：田辺真人氏</p>  |
| 議長  | <p>次に(4)各協議会の会議報告をお願いします。</p>  |
| D委員 | <p>図書館協議会では、公立図書館の今後について話し合われているところです。</p>   |
| 議長  | <p>それでは、議題に入ります。今日は全体会としては第2回です。本年度は「地域・学校・家庭を繋ぐ社会教育のあり方について」を研究テーマに、「社会教育施設の今後について」と「地域・学校・家庭の連携について」という二本柱で検討を進めていこうということで分科会形式の中で3回にかけて検討を行いました。当初は2つの分科会に分れて検討をする予定でしたが、全員出席にはなかなかならないので全員でそれぞれのテーマについて意見を出しました。お手元に資料として「社会教育施設の今後について」と「地域・学</p>   |

# 審 議 経 過

NO. 3

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>校・家庭の連携について」ということで今までに検討した中での各委員の発言でポイント的なものをあげております。特に最後にまとめということであげていますが、修正をしながら年度末にはきちんとした形にしようと思います。それでは「社会教育施設の今後について」いかがですか。</p>  |
| B委員 | <p>社会教育主事配置について現状をお伺いしたい。</p>  |
| 事務局 | <p>社会教育主事という形では中央公民館の1名だけで、全10館ありますが、この1名だけという状況です。</p>  |
| B委員 | <p>10館ある公民館がそれぞれ講座や活動など大変活発にされているが、やはりその核になる公民館には、社会教育主事を配置する方がよいと思うが、これから先、そのような配置や核となる公民館については検討されているのですか。</p>   |
| 事務局 | <p>現場としては社会教育主事がいる方が、色々な活動を中心に考えていけますので非常に望ましいというふうには思っています。ただ現実的には、人の配置については全体で考えていかなくはなりませんので難しいところもありますが、努力していきたいと考えています。</p>   |
| B委員 | <p>市役所には、社会教育主事の資格を持っておられる方が他にいらっしゃるのですか。</p>  |
| 事務局 | <p>以前は公民館の職員になられた方が順を追って、研修に行かれて、資格を取るという形でやっていたと思いますが、研修期間が1ヶ月近くあり、その間業務を離れなければならず、職員の定数も減っている中、業務に支障を来すということで研修に行くことができなくなっています。現在、資格を持っている方はたぶん再任用の方で、若い世代の方で、資格持っている方は庁内でもいるかどうかという所です。配置したくても資格を持っている人自体がおらず、かつ研修にも行ってもらえないというのが現実的な問題としてございます。</p> |
| 議長  | <p>社会教育主事の減少は全国的な問題で厳しい状況であります。基本的には今の事務局の説明のとおりだと思います。</p>  |
| C委員 | <p>中央公民館では今、グループで非常に活発に活動されておられますが、中央公民館の今後のことについては、グループの代表者に集まって頂いて、話し合いをするということでしたが、その結果、どうでしたか。</p>   |
| 事務局 | <p>グループ協議会の役員の方に現状のグループ数、新公民館への引継ぎの状況などの所を相談して、今後の動きとしてどうしていかうかという所を相談していただいております。また計画的に進んだとは言えない所です。</p>  |
| 議長  | <p>キセラへの中央公民館の移転については、グループの理解を得ていかなければ無理なので、担当は大変だと思いますが、グループの方は、70、80歳代の方が多く、生きがいとさ</p>   |

# 審 議 経 過

NO. 4

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>れていますので慎重に市民の方と連携して進めていただけたらと思います。</p>   |
| B委員 | <p>高齢の方は、活動場所が遠くなると行きにくくなるので、その点も考慮しながら決めていただきたい。</p>   |
| C委員 | <p>特に中央公民館では、高齢者大学のりんどう学園が活動しているが、それは今後どうするのか、心配している。</p>   |
| 議長  | <p>生涯学習の推進の方向を教育委員会として、この春、出されていますので、時間がかかっても条件整理も含めて取り組んでいかなくてはと思います。また、他市とくらべて川西は地区公民館が充実しており、自信を持っていただきたい。公民館での伝統のある講座をそう簡単に変える事はできない。例えば、生涯学習としてニーズの高いレフネックにしても、長期的に利用できる独立館を新しく建てていく気迫が無い事には、移転後の様々な問題は解決ができない。そういう視点で、社会教育委員は意見を出していかないとだめではないかと思う。</p>   |
| C委員 | <p>新しいものができるということは、前向きに進むのが第一です。ところが、今回の件は、中央公民館はなくなり、キセラに移転して地域の公民館になるとのことで、全然前向きな話ではない。それはこういう考えからであるという話があるのならば聞かせてほしい。</p>  |
| E委員 | <p>活動されているグループの活動場所の提供は、市の役割だと思います。今、C委員さんが言われた様に、新しい施設になればこのようなことができるという前向きな楽しみや夢が広がる方向で考えていただきたい。それと中央公民館がリーダーシップを発揮する時代ではなくなり、地域を大切にしていくという方向は、理解はできるのですが、たしか加西市でしたか、学びの中心としての公民館というような位置付けをされている取組みがありました。子ども達が公民館に来て色々なことをするというような発表があったと思いますが、このような地域と家庭の連携を活かした公民館での取組みと言うのが、これからの子どもを、そして家庭を育てる上で大事ではないかと思います。例えば、ある取組みを中心に発展させている公民館が1、2館あり、それを全体の取組みとして他の館に広げていく。また公民館同士で特色を出し合いながら横の連携も進め、お互いの取組みを評価し合う。そのような事をやって頂けたら良いと思います。これは学校も一緒ですが、どこも等質で良いという面もあるかもしれませんが、進歩はしない。お互いに質を高める意味で切磋琢磨の姿勢を入れて頂けたらと思います。</p> |
| 議長  | <p>B委員は、登録グループで公民館活動をされていますがいかがですか。</p>   |
| B委員 | <p>緑台公民館、川西南公民館、北陵公民館で登録グループになっているが、アステ市民プラザも使用しているので、場所の確保に関しては、特に問題はありませぬ。川西の金太郎のミュージカルで借りる時は、市役所の文化・観光・スポーツ課を通して部屋を取って頂くので時間がかかる。できれば、直接、部屋をとれたらもっと早く決めていけると思う。</p>  |

# 審 議 経 過

NO. 5

|     |   |
|-----|---|
| 議長  | <p>A委員も活動をされているが、場所の確保では苦労はありますか。</p>   |
| A委員 | <p>それはあまり感じた事はない。2、3か月前に予約をしますので。</p>   |
| 議長  | <p>ほかに公民館活動の部分でなにかございませんか。</p> <p>我々は、このように論議をやっているのですが、行政に頼るのではなく、結局はそこに住んでいる住民で立ち上げて動いていかなければいけない時代になっているのは確かです。基本的には今言われた様な所で社会教育委員として繋ぎを如何にやっていくか、また住んでいる住民としてそういう自治意識を持っていかないと、結局はだめではないかと思えます。社会教育、生涯学習と上から来るのではなく、まずは自分の隣り向こう2、3軒の中で見守っていく。行政には最低でも居場所として公民館などの場所を提供して頂ければと思います。中央公民館の移転問題については直近の問題で、円滑に住民の理解を得る形の中で、色々な工夫をして頂きたいということ。そして高齢者大学のりんどう学園も、生涯学習短期大学のレフネックとあわせて、講座の中身や運営の仕方について考えていく必要があるのではないのでしょうか。りんどう学園は、たぶん、敬老の会や老人会などが自分自身で勉強会を開こうかという形でできたものではないかと思っていますが、どうでしょうか。年配の方達は、講座のスタートは我々が作ったのだという意識がありますので、そこは慎重に出来るだけ上手に今後のことについて論議して頂ければと思います。</p> <p>次に、地域・学校・家庭の連携について、意見を論じていただきます。いかがですか。</p> |
| A委員 | <p>私の子ども達はもう学校に通っていませんので、内容は分らない所もあるのですが、私としては、学校の先生が非常にお忙しいのではないかなというのはいつも心配に思っているところです。新聞にも載っていますが、先生方の一番の基本は子ども達に勉強を教えることですが、それ以外の色々な用事があり、うつ病になり教師を続けられないとか。この頃は、保護者からの意見も多くなり、そのトラブルの解決とかで多くのエネルギーを使ったりする。そこにもってきて地域との連携ということになると、しんどいのではないかということです。私はもっと学校と地域で役割分担をお互い、明確に認識するようにした方がよいのではないかと思います。役割分担をはっきりしないで、もたれ合ってしまうとお互い不満も出るし、しんどくなるのではないかと思うのです。家庭も一緒に、家庭の役割を学校に押し付けるというようなこともあるのではないかと思うのです。家庭がやるべきこと、学校がやるべきこと、地域がやるべきことと役割の認識を三者が持つようにしていないと、お互いが満足いく連携はなかなかとれないように感じます。</p>   |
| E委員 | <p>基本的にはその通りなのですが、子どものためにはもう少し補助をしていただかないと、学校というのはまわらないという部分が結構あります。例えば、こんなことを地域に頼んでどうするのかという話かもしれませんが、校庭の美化などがそうです。校務員の方とともに管理職も一緒にやられる所もありますが、やはり管理職や教職員は、教育の方を中心にしないわけではなならないわけです。と、いうことは、教育は教職員だけで、全部やらなければならないのですが、もう少し補助してもらえないのだろうかと思うのです。教職員もすべての人がすべての分野においてオールマイティーではない。ある分野は、専門家をお呼びして、それをまた先生が学び、先生も伸びていき、新しい授業へと展開していく。現在のような情報社会において、先生方の取り組みも昔と一緒にでは、子ども達を引</p>  |

# 審 議 経 過

NO. 6

|     |   |
|-----|---|
| A委員 | <p>きつけるような授業にはならないし、魅力ある授業というのはそうしていかなくてはならない。極端なことを言えば、地域の経験豊富な方や大学生に補助的に入ってもらおうとかそういうことです。</p> <p>学校、家庭、地域の役割をお互いに認識することで、足りない所をお互い補っていく。その出発点として、お互いの役割を確認するというところで、申しあげました。</p>   |
| E委員 | <p>学校のスリム化というのは、そういうことなのですが、やはり繋がりによって学校の持っている教育力は上がります。</p>  |
| A委員 | <p>それは思いますね。</p>  |
| E委員 | <p>地域の人が学校に入って行くというのは、学校の管理面や中学校の部活との関係など、非常に難しい問題が多々あります。しかし、学校の支援に入ってもらうことを学校が重荷に感じるというのは、大変残念なことだと思います。地域から学校に支援に入って来る。そんなややこしいことになったら、今、目の前の事ができないというのが、たぶん現場の先生の本音だと思います。本音は本音で、よくわかりますし、それは何とかしてあげたいと思いますが、そこで止まっている限りは、支援の広がりというのは持てないです。それと行き場がない子ども達は、外で事件に巻き込まれるなど色々なことが起こってきています。また家庭がしんどい子ども達というのは、学校や地域の人に救われたとか、大学生が来てくれて勉強を教えてもらったなど、そんな経験をさせてあげたい。それと今、支援のコーディネーターやボランティアの後継者をどうするのかという問題もあります。だから、PTAで色々な形で学校に関わって来られた方が、子ども達が学校を卒業した後も、何らかの形で、学校と繋がりを持てる様なシステムができればと思います。</p>   |
| F委員 | <p>地域性というのは、やはりあると思います。北陵地域は、学校での活動はあまり入っていないです。青少年活動をする場合でも、ほとんどは、公民館のコミュニティ室や会議室、集会室を使っているの、あまり学校では行っていません。学校側からクラブ活動のお手伝いということで、例えば、囲碁でしたら、その時は老人会の方が行かれたりしているくらいです。でも、この間、校長先生がおっしゃっておられたのは、やはり子どもの送迎についてはバックアップしてもらわないと、ということでした。見守り隊の方との会合で、PTAがもっと出ていけないといけないというような話し合いが持たれて、登下校の時に、かなりお母さん達が出てくるようになりました。だから、お互いに話が出来る様な関係というのが必要かなと思います。今、我々と学校側とのニーズについては割合、話し合われており、良い環境になっている。それと何か子ども達にさせてやれないかという部分では、学校内ではなくて、外で、例えば高校の化学部の生徒に夏休み来て貰い、化学の実験の経験を子ども達にさせてあげようというプランや大学生のボランティアが勉強を見てくれるので夏休みの宿題を公民館でしないですかとか。そういうものを積極的にはしているのですがあまり来ないです。来る子は毎回来るのですが、それが少し地域的に残念な部分です。</p> |
| C委員 | <p>今後のところにも書いてありますが、学校がこういうふうにお手伝いをして欲しいという</p>   |

|      |   |
|------|---|
| E 委員 | <p>ことは言えないのかなと思います。逆にこんなことをしてもらったら重荷になるというようにあるかとも思います。それも地域や人によって違うのではないだろうかと思うのですが、積極的なところはどんどん発展するが、逆に消極的なところは後ろ向きになっていき、それは子どもにとってもマイナスになる。</p> <p>学校に入って来られる方については、学校の管理職をはじめ職員一同、心配するところがあります。子ども達に直接接してもらうということに関しては、非常に難しい部分もありますから。大学生のボランティアの方なら大学の中で一応研修を受け、学校から来るので、そこでひとつのフィルターがかかるだろうし、地域のボランティアの方は、学校支援地域本部で登録をされるにあたって、面接され人物を見定めて送っていただけるだろうということで、私が現職の時は活用して校区地域以外からも何名か来て頂きました。そういう意味ではどこかがフィルターになって学校の支援に送り出していただけたらというのがあります。それから、放課後に関しては、今年度から三年計画で留守家庭育成クラブが6年生まで預けられるように順を追って拡大していくというような方向付けがされており、6年生までが放課後に残れる様な時代がもう来ているわけです。それこそ、学校支援地域本部を中心とした人達が色々な支援で学校に入られるということが大事です。しかし、その時に学校がノータッチということではだめなわけで、学校支援地域本部というのは、あくまでも学校の教育課程の補助的なものというのが本来のあり方ですので、やはり学校側がニーズを発信し、依頼されるのが良いのではないかと思います。最近もありましたが、生活ノートに一生懸命SOSを書いているのに、明日の研修楽しみましょね、みたいな先生の返し方で、自殺をした中2の子どもさんがおられました。先生にSOSを発信しているにも関わらず、受け止められていないというのが問題になりましたが、学校以外にも発信する所があるのではないかなと思います。それは家庭が一番だと言いますが、家庭でも捉えきれない部分は、放課後にその子の居る場所があったとしたら、そこでもSOSを発信すれば、大きな支えになったのではないかとということが考えられます。命に関わる様な所まで追い詰められた子どもたちを救う様な場に、放課後の居場所もなれないかなというように感じています。</p> |
| 議長   | <p>昨年、学校支援地域本部で、委員に入って頂いている学校長の方に講話をしていただきました。その時、学校が発信する情報には、地域が知りたい情報が発信されていないということでした。だから、学校を見る目が逆にぼやけてしまい、教育現場や学校現場に対しては要求ばかりがあがってくるということです。ところが、学校の中の様子というのは、地域の方は子どもを通してよくご存じです。子どもの話から通っている学校の様子を保護者は知っていらっしゃる。子どもの情報から大人は、この学校は荒れているから、学校の学力はああだ、こうだと言いますが、ふたを開けてみれば、荒れている学校でも実情はちがうようなことだってある。だから、学校が出したい情報だけではなく、地域が知りたい情報を教育現場から発するべきであるということでした。学校のホームページを見ると良い事ばかりが出ていますが、たいへんなSOSの部分を知りたい。管理職を中心にしながら、地域が求めていることについても考えるという姿勢が、本当に大事だという事に改めて気づきました。また、こどもの居場所については、地域社会の中で何らかの方法を考えていかなければいけない。学校に任せるだけではなく、地域と学校がお互いに信頼しながら共に歩いていくということではなれないかなと思います。学校との連携の原点は家庭教育ですけ</p>  |

# 審 議 経 過

NO. 8

|      |  |
|------|--|
| 事務局  | <p>れど、子どもが置かれている家庭の中の実態は想像以上に厳しく、苦しんでいる子どもが多いという事を我々は連携を考えていく時に、常に念頭においておかなければと感じます。大人の居場所、子どもの居場所ということを入権教育の方から、事務局に発言をお願いします。</p> <p>議長には、第三者機関の子どもの入権オンブズパーソンの方で関わって頂いている所ですが、オンブズパーソンでの相談内容を見てみますと、先ほど言われた様に家庭の中や学校で子ども達がおかれている状況が厳しいという声が特に集まっている所です。その中で、ちょっとした繋がりを持つ事で、救われていく子ども達が多くあります。話に上がっています居場所の問題。どこにも自分の身をおけないような子ども達が多くあります。そういった子ども達にどこかで関わっていきける様な所がないのかということでオンブズパーソンの方でも居場所については、協議いただき、市の方にも意見を上げていかなければという様な思いがあります。社会教育委員の会でも色々ご協議いただきながら、進めていただきたいと思います。</p> |
| 議長   | <p>やはり情報発信のやり方に問題があるのでしょうか、結局はリーダーなのです。リーダーを如何に育成していくか、ということとも関わると思っています。学校サイドからの情報も地域が求めている情報が伝わる様に考えて学校運営をやっていかないと、空回りをしてしまうと思います。</p> <p>それでは、今年は、社会教育委員の会の運営の仕方を全体会と分科会の二本立ての形で進めさせていただきましたが、次の2月の全体会が最後になります。今日論議した所も含め、1月の教育委員さんとの意見交換会前の事前打ち合わせの時に検討させていただき、2月の時にまとめたものを教育委員会の方に報告をする形にしたいと思います。</p>  |
| C委員  | <p>毎年、最後にひとりずつ川西市に対する提言を書いています、今回はひとつにまとめてという形になるのでしょうか。</p>   |
| 議長   | <p>どうですか。</p>  |
| C委員  | <p>ひとつにまとめて頂いて、そこへ皆の個人的な意見を入れていただくということをお願いできないですか。</p>  |
| 議長   | <p>それでよろしいですか。</p>   |
| 委員全員 | <p>(了承)</p>  |
| 議長   | <p>それでは、2月を目途にまとめて、委員の連名の形で書かせて頂きたいと思ひます。続いて事務局をお願いします。</p>  |
| 事務局  | <p>例年、実施しております、社会教育委員と教育委員との意見交換会の開催について、現在、平成28年1月21日(木)午後、教育委員会終了後の開催で調整をいたしております。</p>   |

# 審 議 経 過

NO.9

|    |   |
|----|---|
| 議長 | <p>す。詳細が決まり次第、文書にてご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。<br/>また、次回開催につきまして、平成 28 年 2 月 24 日（水）に 202 会議室で予定しております。</p> <p>これをもちまして、社会教育委員の会第 2 回全体会を終わらせて頂きます。</p> |
|----|---|